

図書庶務部 特集

図書庶務部の先生方七名が、図書館にある本からそれぞれお薦めのベスト一〇を選びました。この中で気になる本があったら是非借りて読んで欲しいなと思います。

図書室にある私のお薦めベスト一〇

松田隆喜

第十位 下町ロケット2 池井戸潤 著

ロケットエンジンのバルブシステムの開発により、倒産の危機を切り抜けた佃製作所。今度は多くの心臓病患者を救うことができる医療機器「ガウディ」の開発に取り組みます。二〇一五年、TBSでドラマ放映（福井経編興業がロケ地になりました）

第九位 鉄道員 浅田次郎 著

「鉄道員」と書いて「ぼっぼや」と読みます。廃線を間近にした北海道ローカル線で、定年間の駅長に訪れる幸福を描いた作品です。映画を観た後に読みました。どちらも心に残っています。一九九九年、高倉健主演で映画化。

第八位 神去、なあなあ日常 三浦しをん 著

高校を卒業したらフリーターになろうと思っていた主人公は、なぜか三重県の実業の現場に放り込まれてしまいます。四季の美し

い神去村で、個性的な村人たちが繰り広げる騒動記。林業エンタテインメント小説の傑作です。二〇一四年、染谷将太主演で映画化。タイトル名はWOODJOB（ウツジョブ）

第七位 天地明察 冲方丁 著

江戸時代に日本初の暦作りに挑戦した実在の人・安井算哲の半生を描いた作品です。二〇一〇年本屋大賞第一位に輝きました。二〇一二年、岡田准一主演で映画化

第六位 中村元の全国水族館ガイド112

水族館プロデューサーが全国一一二施設の魅力、見どころ、最新情報を紹介している水族館ガイドの決定版です。私のおすすめる「滋賀県立琵琶湖博物館」と「岐阜県世界淡水魚園水族館アクア・トトギス」です。

第五位 福井県の絶滅の恐れのある野生動物

環境省が作成しているレッドデータブックの福井県版です。絶滅危惧種に関する保全状況や分布、生態、影響を与えている要因等の情報が記載されています。二〇一六年に発行された最新版で、私も魚類の副部会長として携わっていました。本校環境土木部も調査協力者として名簿に記載されています。

第四位 十字架 重松清 著

いじめを苦に自殺した中学生の少年と、そ

の過去を背負う同級生や家族の苦悩を描いた作品です。いじめ問題に少しでも関心があるなら（いじめに関心がない人なんていないと思うので全ての人が）、絶対に読むべき本だと思います。二〇一六年、小出恵介・木村文乃主演で映画化

第三位 銀二貫 高田郁 著

仇討ちで父を亡くした主人公を銀二貫で救ったのが寒天問屋の主人。小さな寒天問屋の暖簾をめぐる数々の事件が起こります。困難を乗り越え、主人公が成長していく姿を描いた傑作です。二〇一四年、NHKでドラマ放送

第二位 日本の淡水魚 山溪カラー名鑑

イワナ類、フナ類、ハゼ類など日本産

淡水・汽水魚三三三
全種類を水中写真約
一二〇〇枚、標本写真
約三〇〇枚を駆使して
徹底的に紹介していま
す。解説陣七十名、水
中魚類写真家三十五名
による日本最強の魚類
生態図鑑です。私も二
冊持ってます。



第一位 あい 高田郁 著

七十三歳にして、北海道開拓を志した医師・関寛斎。その彼を傍らで支え続けた妻のあい。幕末から明治へと波乱の生涯を送った二人の道程を追う歴史小説の傑作です。NHKの大河ドラマになってもいいぐらいの素晴らしい作品です。

池田誠司

第十位 綾瀬はるか『戦争』を聞くII

この本は女優、綾瀬はるかさんが広島・長崎の原子爆弾被爆者から直接話しを伺う形式をとっています。原爆投下後二日後に生まれた小島和子さん。混乱の中、この世に生まれ、今もご健在です。綾瀬さんは現在六十八歳になる小島さんからお話を伺っています。小島さんの言葉の中で、「やっぱり『生まれる』ということはずいぶん周りに人に与えているんだなあて」この言葉が印象的です。他にも七つのお話を紹介されています。みなさん、一度図書館で読んでみませんか。

第九位 夏目漱石、読んじやえば？ 奥泉光 著

みなさん、「我が輩は猫である」は一学期朝読書の時間に校内放送で聞きましたね。夏目先生は他にも数多くの作品を書いていらっ

しゃいます。それぞれの作品の読み方を奥泉さんは簡単な言葉で説明されています。この本を読めば、あなたも「漱石通」になること間違いなしです。是非、図書館で読んでみてください。

第八位 はだしのゲンはヒロシマを忘れない

皆さん「はだしのゲン」を知っていますか。漫画家中沢啓治さんが書いた作品です。彼自身も被爆者なのですが、当時小学生だった主人公「ゲン」を通して原爆によって家族を失った悲しみ、戦争への怒り、そして平和への願いが込められた作品です。この本では作品の生まれた経緯や中沢さんの平和への思いが語られています。

第七位 地球のごはん

みなさん、今日朝ご飯食べました？今はお昼ご飯食べていますよね。この本で世界三十カ国の八十人の人が食べる食事を写真で見れますよ。いろんな状況に置かれている人々の食事を写真で知ることができそうです。

第六位 街道をゆく 司馬遼太郎

皆さんは司馬遼太郎について名前はきいたことがあるでしょう。主に歴史小説を書いています。しかし、シリーズ「街道を行く」は彼が実際に歩いた紀行文であり、国内、国外と司馬が精力的に歩いた先々での所感が込め

られています。私たちのふるさと福井のことも書いているんですよ。

第五位 O・ヘンリ短編集

O・ヘンリ、みなさん知ってます？ アメリカ人？イギリス人？おそらく知らないでしょう。だけど彼つて二十世紀を代表する小説家だと思っんですがね。『賢者の贈り物』、『二十年後』はあまりにも有名で、短い文章なので是非読んでみてください。きつと涙が出てくるでしょう。

第四位 登ってみねの福井の山 福井山歩会

福井の山、

一つは登ってみました？この本では七十の山を紹介しています。初心者から上級者までを対象に登り口から山頂までのコースをイラストを使いながら親切に説明しています。あなたも七十分の一にチャレンジしませんか。

第三位 期待はずれのドラフト1位 元永知宏 著

ドラフトで新人選手が入団する陰には新人選手と同数のプロ野球選手がクビになっています。この冷酷な事実を受け止め、新しい人生を踏み出す男たちがいます。そこから真価を問われることになるんだよね。この本では個々のケースを取り上げています。きつと彼らの生きざまに共感を覚える人もいるで

しょう。

第二位 英語に好かれるとっておきの方法 山力ス 著

「英語つて、流ちょうに話せるようになるには、留学しないといけないの？」「先生、留学したことあるの？」よく聞かれますよ。答はこの本に書いてあります。読んでください。興味あれば、是非。

第一位 貧困 西川潤 著

アフリカ、アジアでどのように貧困が生まれ、人の生存権を脅かすことになるのかをわかりやすく具体的に説明しています。私たちの向かうべき社会像とはどんなものか。是非読んでください。



笠羽靖浩

第十位 「田んぼの学校」あそび編 湊秋作 著

春夏秋冬の農業体験と、草相撲、トンボの羽化のウォッチング、野草の生け花、ヤマアカガエルの子卵発見など、田んぼでの遊びが

紹介されています。また休耕田の一部「田んぼ水族館」として利用する提案もあります。

第九位 「田んぼの学校」入学編 宇根豊 著

農村を農作物の生産だけではなく、生態系の保全や教育、文化までを育む場としてとらえる全く新しい考え方が紹介されています。

第八位 魚道のはなし 中村俊六 著

魚にやさしい川づくりに向けて、特別な水路や装置を設けて、魚の通り道の確保が進められています。この魚道の現状や種類、その問題点などをわかりやすく解説している本です。

第七位 わかりやすい測量の数学 小白井亮一 著

数学の歴史や数学者についてなど、読み物としても大変面白く、数学を身近に、そして浪漫が感じられる本です。レイアウトや図解も見易くて、読んでいて気持ちの良い本です。

第六位 手に取るようにわかる川や湖の生き物の飼ひ方 森文俊、内山りゅう 著

日本産淡水魚だけに留まらず、川や湖に生息する生き物を大切に飼育するための方法を、写真満載で解説した実用書です。誰でも川や湖の生き物の飼育方法が楽しめる一冊で

す。
第五位 今、絶滅の恐れがある 水辺の生き物たち」内山りゅう 編集

失われつつある里山の生き物の生活とその生息状況を丹念に書いた本です。保全に必要な情報源としても重要ですが、写真集として眺めてみても良いかもしれません。

第四位 写真で見える 自然環境再生 認定NPO法人自然環境復元協会 編集

現在のように、自然環境を守る必要性がさわがれていない時代から自然環境を存続させようと努力してきた過程が、順を追って説明してあります。カラー写真が多く理解しやすい本です。

第三位 地球環境にやさしくなれる本 PH P 研究所 編

私たちが身近で取り組める地球環境にやさしくなれるライフスタイルを提案しています。また、知って得する省エネ情報も掲載されていて、地球環境の明日を考えることのできる一冊です。

第二位 よみがえれ里山・里地・里海 重松敏則、JCVN 編集

これからの持続循環型社会、生物多様な環境を維持するのに欠かすことのできない里山、里地、里海、川をどのように保全し、利

用するべきかが書かれています。保全活動の実践事例が数多く紹介されていて、分かりやすい読み物です。

第一位 環境を守る最新知識 第二版(財)日本生態系協会 編著

環境問題関連の書籍は各社から多数出版されていますが、その多くは個別の環境問題について提示するものがほとんどです。この本では、自然の価値・役割から現状、それを取り囲む法制度まで、環境問題を自然生態系全体の問題としてとらえ、問題解決の具体的な方法を最新事例を交えて解説しています。持続可能な社会づくりに向けて私たちは何をしなければならぬのか?そんな疑問に答えられる本です。

近年、大学の推薦入学試験に課せられる小論文の課題にも「環境」に関連するものが多くなってきました。環境に興味のある人以外にも、大学入試用のテキストとして必携の一冊です。



個人的なベスト一〇なので、面白いかわかりませんが、ほとんどが映画化されているので面白いはずです。

第十位 もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら 岩崎夏海 著

「もしドラ」の名前で以前ヒットした話題作。個人的にはそんな簡単に勝てないだろうと突っ込みを入れたくなるような内容だがエンターテイメントとして面白い。

第九位 限界集落株式会社 黒野伸一 著

一人の人物が限界集落を救う物語。その人間模様が、狭い範囲で描かれているので、結局はそうなるのかと思ってしまう作品。

第八位 空中ブランコ 奥田英朗 著

直木章を受賞した作品。そんな精神科医じゃないよ、と突っ込みをいれなくなるような作品。患者は毎回ビタミン注射を打たれる。

第七位 植物図鑑 有川浩 著

ありえないストーリーだけど面白い。ただし大人が読むとちよつと恥ずかしい。図書館では多くの生徒が借りていった本。「植物図鑑」題名とは違う恋愛作品。

第六位 神様のカルテ 夏川草介 著

寺井隆人

医者なのにそんなボロい場所に住まないだろうと思ってしまう作品。周りの医者や住人たちとの人間模様が面白い。

第五位 ビタミンF 重松清 著

明るい本かと思ひ読んだら、どれもずしりと重たく考えさせられる短編小説集。「せっちゃん」は子を持つ親としては、悲しい作品。

第四位 銀の匙 荒川弘 著

農業高校だが、本校とは違い獣医を目指す生徒もいてレベルが高いと思う。いろんな部活があり北海道は違うなあと感じさせられる。

第三位 レポリューションNo.3 金城一紀 著

著者の「GO」の作品も面白かったけど、この作品も面白い。男子高校生の無鉄砲な行動が勇気をもたえるはず。

第二位 夜明けの街で 東野吾吾 著

馬鹿にしていた不倫の世界にドッキリとハマってしまい、



家庭と愛人の両立に苦しむ前半。殺人容疑で疑惑をもってしまった上、相手の本気さにビビってしまう後半。どちらも面白い。

第一位 神去なあな日常 三浦しをん 著

十八歳の青年がど田舎で林業を目指す話。周りの人物と田舎過ぎることが面白い。映画化された作品。続編も面白い。

木村美奈子

第十位 同じ年に生まれて 小澤征爾・大江健三郎 著

自分の中から搾り出すこと、自分の個から出てくるものを、どうやって他の人たちへ届ける。思わず池田先生が「授業を通して自分の生き方を示す」と言われていたのを思い出した。

第九位・八位 「ターシャの庭」「ターシャの家」ターシャ・テューダー 著

アメリカ・バーモント州の山中に亡き筆者の家がある。そこにある庭や家の中の様子がうかがえる。本当に気に入ったもの、使い勝手の良い道具、人の持ち物からその人のことが見えてくるものかもしれない。

第七位 かぎばあさんアメリカへ行く(英語) 手島悠介 著

小学生の頃夢中で読んだシリーズ。私が中

学生のころにはすでに英語版で読むことができたであろうが、その存在を知らなかった。当時読んでいたらどんな感想を持っただろう。

第六位「大草原の小さな家」と自然 服部奈美 著

自然VS文明。インガルス一家が団結して様々な危機をも乗り越えていく姿や、家族での過ごし方に感化されたことを思い出す。

第五位 おわらない夏 小澤征爾 著

小澤征爾の娘、小澤征良の書物。小澤家の「物事の本質を見る。感わされたり、流されたりしない」中で育った征良さんの米マサチューセッツ州タングルウッドでの思い出。

第四位 英語と仲良くなる本 高橋茅香子 著

筆者がどのようにして英語ができるようになったかという話。英語の本には物語や雑誌、辞書、点字、旅行ガイドなど様々な分野のものが存在する。それらから異文化の香りを嗅いでみてはどうだろう。

第三位 羊と鋼の森 宮下奈都 著

ピアノの調律にこれほどのドラマがあると。この本を読む前に、我が家にピアノがやってきたところだった。この本の中の調律師たちのような人たちがいたら、と羨ましく

なった。

第二位 お金とモノから解放されるイギリスの知恵 井形慶子 著

「ルールやガイダンスだらけの危険な国、日本」など何となく「ひっかかる」「目次。文化が違うからだけでは無いと考えさせられる。」

第一位 田舎のパン屋が見つけた「腐る経済」渡邊格 著

天然酵母にはまつた。放つておいてもできあがる酵母や生地。天然酵母の食パンを食べる日々が続く。夏の高湿多湿に酵母がやられるまでは、「働く」ことを考えさせられる一冊。



第十位 ふるさと福井の味

平成二十五年十二月に「和食」がユネスコ世界無形文化遺産に登録されてから、国内でも日本の伝統的な食や和食を食文化として見つめ直す動きが活発になっています。県内に

吉田恵理

も、伝統行事や季節毎に受け継がれているその土地ならではの郷土料理・伝承料理が数多くあります。普段食べている料理が郷土料理だったりますよ。

第九位 ターシャの庭 ターシャ・テューダ 著

ターシャが愛し、育てた花がこれでもかと咲き誇り、私たちに創造することの素晴らしさを教えてくれます。いつかこんなところで生活してみたいと思わせてくれます。

第八位 プランター菜園 上岡誉富 著

「野菜は畑じゃないと大きくならない」そんな風に誤解していませんか？限られた量の土で育てるプランター栽培、おいしくて立派な野菜が収穫できるんですよ。プランターで野菜を上手に育てるためのコツをずばり教えてください。

第七位 日本一短い「母」への手紙

これは、平成五年に福井県丸岡町が主催で、日本で初めての試みとして、単なる町興しの為でなく、手紙文化の復権及び昂揚の環境として企画され、一冊の作品集として刊行されたものです。

三二、二三六通の手紙が寄せられ、その一通一通に込められた「母」への想いが満ちあふれています。

第六位 自然菜園 竹内孝功

表紙に「耕さず草を生やして供育ち」なんて書いてあるので読んでしまいました。著者は自然農法や自然農、十草農業に学び、草は野菜が自立するまで刈って敷く草マルチ法、草に負けない野菜の根に根性をつける種まき・定植・水やり・施肥法、通路には緑肥をまいて草マルチに、コンパニオンプランツとの混植・輪作、生える草の種類から土のステージを判断した適地適作など、自然共存型の自然栽培法が書かれています。

第五位 漬けものの絵本 きたむらえいぞう・いしかわけいいち編

旬の野菜を、保存して長く食べ続ける食の知恵「漬けもの」。絵本なので漬け方がわかりやすいところが有り難いです。今すぐに漬けものがしたくなります。

第四位 とれたて野菜手帖 石倉ひろゆき著

自分で育てれば、野菜はこんなに美味しい。完璧を目指さなければ、野菜づくりはこんなに楽しい。とれたて野菜をすみずみまで明瞭にとらえた写真と、詳しい栽培方法が載っています。

第三位 きれいになるハーブ 蛭原友里 著

ハーブティー・料理から生活を彩るインテリアグッズなど、初心者でもわかりやすく実

用的なハーブ本。女性の体調や悩みに合わせた「メディカルハーブ」の取り入れ方や、毎日の生活をより美しく、快適にするハーブとのつきあい方についても載っています。

第二位 まんがでわかる野菜づくり よだひで著

野菜の作り方を楽しいまんがで解説しています。本当に見やすく分かりやすいので職場と自宅に同じ本を置いていきます。

第一位 人生がときめく片づけの魔法 近藤麻理恵 著

あまり読書をしてない私が集中して一気に読んだ本です。近藤麻理恵さんがテレビでときめく物だけを残して片づけしていくという方法で部屋をきれいにしていたことに興味をそそられ、この本を読んでみました。片付けが苦手な私でも片付けられました。ときめかなかった物は処分したりしますが、その時にひとこと物に対して感謝の気持ちで「今までありがとう」と言って処分するところも素敵



だと思いました。

近間幸教

第十位 銃口 三浦綾子 著

激動の昭和を生きた才能ある一人の青年が、思想犯の濡れ衣による独房生活。さらに軍隊に取られるが、疑惑のレットルは背中に銃口を向けられるように何処までもつきまとう。「人間はどう生きるか」は作者の終生のテーマである。

第九位 その時歴史が動いた NHK取材班

天正一〇年(一五八二)六月二日。京都本能寺天下統一を目前にした織田信長を、家臣の明智光秀が討ち取った。光秀は、この後、各地の武将たちが京都に攻め上がってくるまで、五〇日はかかると考えた。

だが、わずか一〇日あまりの後の、六月三日。京と大坂の中間、天王山の麓に陣を張る光秀の前に橋場秀吉率いる三万の大軍勢が現れた。光秀にとって思いもよらぬ秀吉の登場だった。六月三日天王山の麓で両軍が激突した。日本の行方を決める天王山の戦いで、その秘密に迫る。(ほか、四編)

第八位 気になる日本語の気になる語源 杉本つとむ著

コトバには心がある。力がある。魂があ

る。

◆やさしいことばは、人にすなおさと明るさを与える。

◆きびしいことばは、人に勇気と努力を与える。

◆美しいことばは、人に愛と慈悲を与える。

◆きたないことばは、人にひねくれと虚を与える。

◆おそろしいことばは、人に孤独と恐怖を与える。

◆はげしいことばは、人に争いと絶望を与える。

◆ユーモアのあることばは、人に笑いと癒を与える。(本文より)

第七位 生きるほくら 原田マハ 著

引きこもり青年が田舎の祖母のもとで米作りを通して立ち直るというありがちなストーリーだが、田舎暮らしと農業のリアリティに説得力があります。「生きることは食べることだ」と実感させられ、日頃のグダグダな食生活を一瞬反省しました。マーサばあちゃんの特長な田んぼで実った米を塩むすびにして食べてみたい!

第六位 くちびるに歌を 中田永一 著

五島列島という小島に住む中学生が合唱部で、全国コンクールを目指す物語です。主人

